

道徳の時間の目標

道徳教育の目標に基づき、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、深化、統合し、道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深め、道徳的実践力を育成するものとする。

基礎的・基本的な知識及び技能の習得、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力を育む

言語活動の充実

道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深める観点から、自分とは異なる考えに接する中で、自分の考えを深め、自らの成長を実感できるよう、自分の考えを基に、書いたり討論したりするなどの表現する学習活動を充実する。

書く活動を通してねらいとする道徳的価値に関わる自分の考えを持たせる事例

- 1 学年 第3学年
- 2 主題名 「きまり」を守ることの意義 4-(1) 法やきまりの遵守  
(文部省資料：「二通の手紙」)
- 3 ねらい  
動物園の「きまり」と入園者の事情を察した元さんの揺れる心情を通し、「きまり」の意義を理解するとともに、集団の秩序を高めるための道徳的判断力を養う。
- 4 言語活動の充実の視点  
視点1：書く活動を通して生徒に自分自身の考えを持たせ発表し合う中で、自分の感じ方や考え方を明確にさせる。
- 5 主な学習活動



自分の考え方を基に

表現する機会の充実

- 道徳の時間のねらいに迫るために、「書いたり討論したりするなどの表現する機会」を持つことは、生徒の意見の拠り所を明らかにする過程でもあり、道徳の時間のねらいである道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深めることを促します。

生徒と生徒及び自分自身との対話が深まるよう、表現する活動の内容や場面の工夫が一層求められます。

評価の方法

- 道徳の時間における生徒の様子に関する評価は、慎重かつ見通しを持って取り組む必要があります。道徳の時間は、生徒の人格そのものに働きかけるものであるため、その評価は難しいものです。

生徒の道徳性を理解し評価するためには、観察、面接、作文やノートなどによる資料収集の方法があります。これらを併用し、道徳性の理解を深め、適切に評価し、指導を改善していく手掛かりになるようにしましょう。

段階	学習活動
導入	○「きまり」についてのイメージを交流する。 ・「きまり」についてどんなイメージがあるか。
展開	○「二通の手紙」を読んで話し合う。 ・あなたが元さんだったら、幼い姉弟を入園させたか。また、それはなぜか。 ・事務所の中で連絡を待っていた時、元さんはどんなことを考えていたのだろうか。 ・元さんが「この年になって初めて考えさせられたこと」とは何だったのだろうか。
終末	○法や「きまり」の意義について話し合う。 ・「きまり」は何のためにあるのだろうか。 ○本時を振り返り、考えたことをまとめる。 ・授業全体を通して、考えたことをまとめよう。

視点1

